



長野県上田市立 第五中学校

テスト前の学習で効果的に活用！ ～ 一斉授業で活用するコツ～

第五中学校では、定期テスト対策にeライブラリのいろいろなカード帳、教科書復習テスト、単元テストを活用しています。今回は、3年生の授業の様子とeライブラリを効果的に活用するための先生の工夫をご紹介します。

フラッシュ型教材で既習事項の確認と定着



理科 原子の記号、イオン式

この日は、まず準備体操としてeライブラリのいろいろなカード帳で復習をしました。生徒は、画面に出題された問題を見て、先生オリジナルの『理科学習カード』に解答を書き込んでいきます。

「いろいろなカード帳は、暗記が必要な分野でテンポよく学習できるので、とても使いやすいです。」と堀内先生。問題の難易度によって出題時間を調整する

ことで、生徒の集中力を保っていました。このきめ細やかな配慮から先生の「生徒たちに定着させたいという熱い思い」が感じ取れました。

テスト形式で学習範囲の理解度確認！



▲ 教科書復習テストの結果とおすすめ教材を確認

理科 単元：化学変化とイオン

続いてテスト範囲全体の復習で、教科書復習テストと単元テストを使った実力テストを行いました。生徒は問題を解き終えた後、『理科学習カード』に得点を書き込みます。

つまりいた問題は、教科書やノートで要点を確認して再テスト。先生はテストの回数と得点、解くのにかった時間から生徒の理解度を確認していました。

インタビュー eライブラリを授業で活用しているねらい

eライブラリは生徒が自分のつまづきや苦手分野を知り、それらを補うことをねらいに活用しています。生徒全員が、学習したことを理解したか、覚えたのかを自分で正確に判断できるとは限りません。eライブラリは、問題の正誤が客観的に「○」「×」でわかるので、自己理解をする上でとても活用しやすいです。

また、繰り返し学習をすることでステップアップでき、生徒の自信にもつながっているところも良いと思っています。



理科
堀内 富美 先生

『eライブラリ』と『理科学習カード』を授業改善に活用

理科学習カード 3学年1学期中間テスト対策

姓 名 氏名

1. 準備体操
<原子記号>

1	2	3	4	5	6	7	8
H	C	N	O	Na	Mg	Al	Zn
9	10	11	12	13	14	15	得点
Cl	K	Ca	Fe	Cu	Zn	Ag	13

<イオン式>

1	2	3	4	5	6	7	8
H ⁺	Na ⁺	K ⁺	Ca ²⁺	Cu ²⁺	Zn ²⁺	Mg ²⁺	Ba ²⁺
9	10	11	12	13	14	15	得点
NH ₄ ⁺	Cl ⁻	OH ⁻	S ²⁻	SO ₄ ²⁻	CO ₃ ²⁻	NO ₃ ⁻	9

2. 教科書の復習 (イオン)
<水溶液とイオン> 100点取れたら次へ!

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
得点	100	点	点	点	点
時間	5	分	分	分	分

<化学変化と電池> 100点取れたら単元テストへ!

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
得点	100	点	点	点	点
時間	3	分	分	分	分

▲ 生徒が記入した『理科学習カード』

eライブラリで理科の授業をするときは、いろいろなカード帳や教科書復習テストの学習記録を記入できる『理科学習カード』（ワークシート）を組み合わせています。

「『eライブラリ』と『理科学習カード』を使って授業をすることで、子どもたちの理解度がよりわかりやすくなります。」と堀内先生。

『理科学習カード』の**学習結果や問題を解くのにかった時間から理解度を確認し、授業改善に活用したり、生徒の学習意欲や関心を評価のプラス要素にしたりしています。**

eライブラリ活用のねらい

- 生徒自身が自分のつまずきや苦手分野を客観的にとらえ、自己理解をする。
- 生徒の学習意欲や関心を高め、テスト範囲の定着を図る。

先生の工夫

- いろいろなカード帳で学習するときは、『理科学習カード』に解答を書き込むことに集中できるように、先生機で問題を開き、生徒機へ画面転送して問題を出題する。また、生徒の集中力を保つため、出題時間を調整しながらテンポよく進めている。
- 教科書復習テストで学習するときは、学習時間を意識して問題を解けるように、学習指示機能を利用して解答時間を指示している。
- パソコン操作の時間と『理科学習カード』に授業のふりかえりを書く時間にメリハリをつけるため、パソコンの電源は先生が一斉に切る。

生徒の様子

- いろいろなカード帳で「原子の記号」と「イオン式」の問題を解いているときは、大文字・小文字・数字などを正確に書くことを意識している姿が見られた。
- 教科書復習テストと単元テストでつまずいた問題を、ドリル（単元学習）と解説教材を利用して、主体的に復習している姿が多く見られた。
- 友達同士で問題を確認し合い、正答を導き出している姿が見られた。

インタビュー

eライブラリを活用した今後の展望

本校では、導入されたICT機器を有効に活用して、「子どもたちにとってわかる授業」を進めていきたいと思っています。そのためには、導入されたICT機器でできることや、活用方法を知ることが大切です。

今後は、教科ごとの特性に合ったeライブラリの活用ができるように、教科会で研修会を実施していきます。



教頭
青木 辰夫 先生